

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3621201	授業科目名	日本の美術			開講曜日・講時	月曜 4 限		
担当教員名	山名 伸生	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>				
サブタイトル									
日本の郷土玩具									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の美術の多様性を通じて自他の文化を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。</li> <li>・日本美術に関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本の美術に関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>フィギュアやゆるキャラは突然生じたものではなく、古くから我が国には各地で楽しいオモチャや人形(郷土玩具)が作られてきました。ここに認められる優れたデザイン・造形は一握りの天才によるのではなく、無名の人々が工夫をこらしてきたものであり、そこに祈りを込めてきたのです。国宝とは対極にある伝統的所産の素晴らしさに気づいてもらいたいと思います。フィギュアやゆるキャラは突然生じたものではなく、古くから我が国には各地で楽しいオモチャや人形(郷土玩具)が作られてきました。ここに認められる優れたデザイン・造形は一握りの天才によるのではなく、無名の人々が工夫をこらしてきたものであり、そこに祈りを込めてきたのです。国宝とは対極にある伝統的所産の素晴らしさに気づいてもらいたいと思います。</p>									
授業計画									
第1回 郷土玩具概説 第2回 研究史 第3回 北海道・東北の玩具 第4回 東京・関東の玩具 第5回 甲信越・北陸の玩具 第6回 京都・近畿の玩具 第7回 中国・四国の玩具 第8回 九州・沖縄の玩具 第9回 ジャンル別にみた玩具 第10回 伏見人形 第11回 東北三大土人形と三春人形 第12回 こけし1 第13回 こけし2 第14回 高松張子と女性作者 第15回 郷土玩具再考・まとめ									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
年賀状をはじめとした郷土玩具をモチーフにした様々なデザインに留意してください。また祭礼や年中行事におけるツクリモノや授与品に注意したり、良心的な民芸品店や百貨店の物産展などで実物に接する機会をもってください。 単位制度の趣旨により、週 4 時間程度の予習・復習をすること。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業内で指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3301201	授業科目名	歴史学概論			開講曜日・講時	金曜 3 限		
担当教員名	岩本 真一	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
歴史学を学ぶ意味について考える									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民衆と地域に焦点を当てつつ歴史学の観点から自他の文化を多元的に捉えるための基本的な知識を習得できる。</li> <li>・歴史学一般に関する基本的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを歴史学の基本的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>初めて歴史専攻に入る学生のための概論科目である。「歴史とは何か」という根源的な問いから出発し、歴史学が果たす社会的有用性と、それを学ぶことの意味について考える。ここでは歴史を広く捉え、日本史に限定しない。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。初めて歴史専攻に入る学生のための概論科目である。「歴史とは何か」という根源的な問いから出発し、歴史学が果たす社会的有用性と、それを学ぶことの意味について考える。ここでは歴史を広く捉え、日本史に限定しない。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。</p>									
授業計画									
<p>予定としては以下のとおりだが、変更することもあり得る。</p> <p>第1回: ガイダンス—なぜ歴史学を学ぶのか</p> <p>第2回: 歴史学の歴史1—前近代の歴史意識</p> <p>第3回: 歴史学の歴史2—近代の歴史意識</p> <p>第4回: 歴史学の歴史3—歴史学の誕生</p> <p>第5回: 前近代日本の歴史意識</p> <p>第6回: 近代日本の歴史学</p> <p>第7回: 現代日本の歴史学</p> <p>第8回: 地域史の視点と方法</p> <p>第9回: 八瀬の地域史</p> <p>第10回: 民衆史の視点と方法</p> <p>第11回: もうひとつの民衆史</p> <p>第12回: 社会史の視点と方法</p> <p>第13回: 日本における社会史研究</p> <p>第14回: まとめ—歴史を考える意味</p> <p>第15回: 到達確認</p>									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要になる。この授業における授業外学習の内容と時間数は以下のとおり。</p> <p>予習: シラバスに基づき、関連するキーワードについて、書籍・事典・インターネット等で授業前に調べておくこと(週1時間)。</p> <p>復習: 授業で配布されたレジュメや資料をもとに、授業での説明を踏まえながら全体を自身でまとめ直すこと(週3時間)。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
とくに指定しない。									
参考文献・作品等(購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									
講義のなかでその都度、紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3625201	授業科目名	日本思想史			開講曜日・講時	金曜 5 限		
担当教員名	岩本 真一	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
近現代日本の思想構造を知る									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を主題に展開した思想を通じて自他の文化を多元的に捉えるための専門的な知識を習得できる。</li> <li>・日本の思想史に関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本思想史に関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>単に日本近現代の思想を時系列的に概説するのではなく、近現代の日本思想史を問題史として再構築し、現代日本社会の史的構造を浮き彫りにすることを目指す。これにより、いま私たちが生活している社会がどのような過程を経て形成されたのか、この社会の問題点は何に規定されているのか、ということを考えてもらいたい。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。単に日本近現代の思想を時系列的に概説するのではなく、近現代の日本思想史を問題史として再構築し、現代日本社会の史的構造を浮き彫りにすることを目指す。これにより、いま私たちが生活している社会がどのような過程を経て形成されたのか、この社会の問題点は何に規定されているのか、ということを考えてもらいたい。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。</p>									
授業計画									
<p>講義予定は以下のとおり。ただし、変更することもあり得る。</p> <p>第1回: ガイダンス—史的構造という視点  第2回: 日本における近代的精神の誕生  第3回: 明治維新と日本的「近代」  第4回: 福澤諭吉の近代性  第5回: 自由民権の思想と運動  第6回: 困民党の意識と思想  第7回: 田中正造と足尾鋳毒事件  第8回: 自由教育運動と民力涵養運動  第9回: 日本ファシズムと大アジア主義  第10回: 転向と知識人  第11回: 戦時下の民衆生活  第12回: 戦時体制と戦後体制の連続性  第13回: 高度経済成長と民衆の生活  第14回: まとめ—日本近現代の思想とは何だったのか  第15回: 到達確認</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要になる。この授業における授業外学習の内容と時間数は以下のとおり。</p> <p>予習: シラバスに基づき、関連するキーワードについて、書籍・事典・インターネット等で授業前に調べておくこと(週1時間)。  復習: 授業で配布されたレジュメや資料をもとに、授業での説明を踏まえながら全体を自身でまとめ直すこと(週3時間)。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
使用しない。									
参考文献・作品等(購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									
講義のなかでその都度、紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	CHU1013101	授業科目名	日本史			開講曜日・講時	月曜 2 限		
担当教員名	吉永 隆記	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
天災の日本史									
授業の目的・到達目標									
<p>(1) 日本史上の災害や飢饉など、主に前近代の様々な天災の事例を通じて、天災と向き合ってきた日本人の活動や生活を理解する。</p> <p>(2) 日本史上の天災が及ぼした被害や対応を知ることで、災害が頻発している現代日本との比較や対応策についても考えを深め、歴史を学ぶことの大切さも理解する。</p>									
授業の概要									
<p>古代～近世までの地震・飢饉・噴火を中心として、日本史上の天災を史料に基づいて講義する。また、現在の地震や災害研究の成果を踏まえ、天災が歴史に与えた影響や、現代に生かせる対策についても解説し、受講者との意見交換を踏まえて理解・関心を深めていく。</p> <p>また、本講義では毎回の授業後にコメントシートを記入してもらい、コメントシートに記入された疑問や感想等に対しては、次回授業時にフィードバックを行う。古代～近世までの地震・飢饉・噴火を中心として、日本史上の天災を史料に基づいて講義する。また、現在の地震や災害研究の成果を踏まえ、天災が歴史に与えた影響や、現代に生かせる対策についても解説し、受講者との意見交換を踏まえて理解・関心を深めていく。</p> <p>また、本講義では毎回の授業後にコメントシートを記入してもらい、コメントシートに記入された疑問や感想等に対しては、次回授業時にフィードバックを行う。</p>									
授業計画									
<p>第1回目: ガイダンス(本講義の目的・概要・成績評価方法等)と導入</p> <p>第2回目: 奈良時代の地震と大仏造立</p> <p>第3回目: 平安京遷都と地震</p> <p>第4回目: 貞観の地震・噴火</p> <p>第5回目: 都の疫病と祇園会</p> <p>第6回目: 鎌倉大地震と政変</p> <p>第7回目: 応永の大飢饉①</p> <p>第8回目: 応永の大飢饉②</p> <p>第9回目: 慶長伏見大地震と豊臣政権</p> <p>第10回目: 宝永地震</p> <p>第11回目: 宝永大噴火と江戸</p> <p>第12回目: 享保の大飢饉と農業</p> <p>第13回目: 天明の大飢饉と改革</p> <p>第14回目: 天保の大飢饉と大塩の乱</p> <p>第15回目: 理解度の確認(期末試験)</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>理解度を確保するため、講義内で取り上げた内容をもとに論述式の試験を実施するので、講義で紹介した事例や史料などをもとに、復習することが重要である。なお、単位制度の趣旨に則り、本講義では週 4 時間の授業外学習時間が必要である。毎回の講義レジュメ、資料を用いて復習を行い、毎回提示する参考文献などを読んで理解を深める学習をしておくこと。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

清水克行『大飢饉、室町社会を襲う!』(吉川弘文館、2008 年)  
保立道久『歴史のなかの大地動乱』(岩波書店、2012 年)  
磯田道史『天災から日本史を読みなおす』(中央公論新社、2014 年)  
このほか、講義内で適宜紹介する。

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3307201	授業科目名	日本古代史特講			開講曜日・講時	火曜 3 限		
担当教員名	柳沢 菜々	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
古代における天皇の財産—食事・住まい・墓から考える—									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本古代史研究に関する専門的な知識・技能を体系的に理解できる。</li> <li>・日本古代史に関する専門的な知識・技能を実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本古代史に関する専門的な知識・技能にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>日本の歴史を考えるうえで、「天皇」の存在を切り離すことはできません。古代において天皇は、政治的な役割に加えて宗教的な役割を持ち、国の中心に位置づけられていました。この講義では、主に奈良時代において天皇が有したプライベートな財産について、食料の調達・住まいの相続・墓への葬られ方を手がかりに分析し、それらを通して古代社会の特質を探ります。また、古代史研究を実践する際のケーススタディとなるよう、古代史料の特徴や研究手法などを合わせて紹介します。日本の歴史を考えるうえで、「天皇」の存在を切り離すことはできません。古代において天皇は、政治的な役割に加えて宗教的な役割を持ち、国の中心に位置づけられていました。この講義では、主に奈良時代において天皇が有したプライベートな財産について、食料の調達・住まいの相続・墓への葬られ方を手がかりに分析し、それらを通して古代社会の特質を探ります。また、古代史研究を実践する際のケーススタディとなるよう、古代史料の特徴や研究手法などを合わせて紹介します。</p>									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス—日本古代史の研究視角</li> <li>2、古代史の史料と研究①—出土文字資料の特質</li> <li>3、古代史の史料と研究②—木簡と日本古代史研究</li> <li>4・5、学外見学会「地下の正倉院展」※土曜に振り替えて実施</li> <li>6、古代史の史料と研究③—日唐律令比較研究の手法</li> <li>7、食事から探る天皇①—天皇の米</li> <li>8、食事から探る天皇②—天皇と野菜</li> <li>9、住まいから探る天皇①—宮の成立と伝領</li> <li>10、住まいから探る天皇②—都城の変遷</li> <li>11、墓から探る天皇—合葬陵と皇位継承</li> <li>12、奈良時代の特質①—長屋王の生活</li> <li>13、奈良時代の特質②—聖武天皇の財産</li> <li>14、奈良時代の特質③—皇統の変化と財産のゆくえ</li> <li>15、学習成果の確認</li> </ol>									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
<p>講義の内容は連続しているので、次回の授業までに、前回授業の復習ノートを作成すること。 背景となる古代史の知識が不足していると感じた場合は、参考文献等で補うこと。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
授業中に適宜紹介する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
奈良文化財研究所 HP 木簡庫(木簡データベース) <a href="https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/">https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/</a>									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3617201	授業科目名	日本文化史			開講曜日・講時	火曜 4 限		
担当教員名	山本 真紗子	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
日本の文化について、京都とかかわりの深いトピックスを題材に学ぶ									
授業の目的・到達目標									
(1)さまざまな「日本文化」について、その歴史的経緯や、発展の背景についての知識を得る (2)今日の「日本文化」のありかたや、今後の発展について、自分なりの考えをもつ (3)京都という地域や、そこでつちかわれてきた「文化」について、具体例をもとに論じることができる									
授業の概要									
近年「日本文化」に関するテレビ番組や雑誌記事が数多く制作されるなど、国内外で「日本文化」に注目があつまっている。しかし、そうしたメディアの情報では、表面的な部分しかとりあげられないことも多い。本講義ではいわゆる「日本文化」について、現在ある事象と、そこにいたる歴史の変遷や背景について学び、「日本文化」について考えるための基礎的な知識を習得することを目標とする。「日本文化」と一言で言っても、分野もさまざまであり非常に幅広い。そのため、京都精華大学があり、受講生にも身近な場所である「京都」を中心におき、「京都」にかかわりの深いものを中心にとりあげる。近年「日本文化」に関するテレビ番組や雑誌記事が数多く制作されるなど、国内外で「日本文化」に注目があつまっている。しかし、そうしたメディアの情報では、表面的な部分しかとりあげられないことも多い。本講義ではいわゆる「日本文化」について、現在ある事象と、そこにいたる歴史の変遷や背景について学び、「日本文化」について考えるための基礎的な知識を習得することを目標とする。「日本文化」と一言で言っても、分野もさまざまであり非常に幅広い。そのため、京都精華大学があり、受講生にも身近な場所である「京都」を中心におき、「京都」にかかわりの深いものを中心にとりあげる。									
授業計画									
1 インTRODクション—授業のすすめかた、この授業の「日本文化」に対する視点 2 日本文化と海外文化1—シルクロード、中国との交流 3 京都の祭り—葵祭・祇園祭・時代祭 4 神社のあれこれ—「遷宮」というシステム、工芸との関わり 5 お茶と日本人—茶経・茶の湯 男性の社交から女性のお稽古へ 6 絵画から見る人々の生活—風俗画、洛中洛外図、浮世絵 7 図像を読み解く—さまざまな文様とその意味 8 日本文化と海外文化2—南蛮貿易・海外に残る日本美術 9 日本人と旅—参詣、旅行書、ディスカバー・ジャパン 10 伝統工芸のなりたち—産地の特色とその成立 11 博覧会の時代—万国博覧会・内国勸業博覧会 12 京都の近代化—どんどん焼けからの復活 13 伝統工芸をとりまく環境の変化—公害と工芸、情報発信 14 伝統と西洋化—京菓子を例に 15 まとめ「日本文化」の特									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
授業内でとりあげるもの以外にも、京都にはさまざまな行事やイベントが常時開催されている(祭、茶会、展示会・展覧会、見学会、ワークショップなど)。また、観光・旅行でおとずれる以外にも、行くべき場所・おもしろいところはそのかきこにある(寺社仏閣、博物館・美術館、歴史的建造物、遺跡など)。メディアやネットの情報だけでなく、できるだけ自分の足で歩き、自分の目で見て、体験すること。まずは京都の町を楽しんでほしい。参考文献は授業内で指示する。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
とくになし									
参考文献・作品等(購入不要・より深く授業内容を理解するための有用資料)									
『京都の歴史』学藝書林など京都の歴史に関する通史や地誌類。林屋辰三郎『日本文化史』岩波書店、1988年ほか。個別テーマに関する文献は適宜授業内で指示する。									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3309201	授業科目名	日本中世史特講			開講曜日・講時	木曜 4 限		
担当教員名	吉永 隆記	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
中世社会の民衆と慣習									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本中世史に関する専門的な知識・技能を体系的に理解できる。</li> <li>・日本中世史に関する専門的な知識・技能を実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本中世史に関する専門的な知識・技能にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>中世は「武士の時代」と呼ばれるように、武家政権である幕府の成立・展開・崩壊や、その内部での政争等が注目されがちである。しかしながら、幕府が定めた政策や法は、中世における社会一般の慣習や民衆の欲求が大きく反映されたものであった側面も見逃してはならない。本講義では、天皇や将軍はもちろん、百姓・商人・被差別民に至るまで、中世社会の各階層に広くスポットを当て、現代の価値観との比較を行いながら、中世社会の慣習・法・観念・生活などについて講義を行っていく。</p> <p>また、授業後にはコメントシートを記入してもらう。記入された疑問や意見に対しては、次回授業時にフィードバックを行う。中世は「武士の時代」と呼ばれるように、武家政権である幕府の成立・展開・崩壊や、その内部での政争等が注目されがちである。しかしながら、幕府が定めた政策や法は、中世における社会一般の慣習や民衆の欲求が大きく反映されたものであった側面も見逃してはならない。本講義では、天皇や将軍はもちろん、百姓・商人・被差別民に至るまで、中世社会の各階層に広くスポットを当て、現代の価値観との比較を行いながら、中世社会の慣習・法・観念・生活などについて講義を行っていく。</p> <p>また、授業後にはコメントシートを記入してもらう。記入された疑問や意見に対しては、次回授業時にフィードバックを行う。</p>									
授業計画									
<p>第1回目: ガイダンス(本講義の目的・概要・成績評価方法等)と導入</p> <p>第2回目: 荘園社会と地頭</p> <p>第3回目: 中世の殺生観</p> <p>第4回目: 中世京都の都市慣習①</p> <p>第5回目: 中世京都の都市慣習②</p> <p>第6回目: 荘園の世界①</p> <p>第7回目: 荘園の世界②</p> <p>第8回目: 中世社会と喧嘩両成敗</p> <p>第9回目: 分国法の制定経緯とゆくえ</p> <p>第10回目: 日本中世の人口・食糧問題</p> <p>第11回目: 中世の流通経済と割符</p> <p>第12回目: 惣村と戦乱</p> <p>第13回目: 中世の神人</p> <p>第14回目: 豊臣政権と兵農分離</p> <p>第15回目: 到達度の確認(期末試験)</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>理解度を確保するため、講義内で取り上げた内容をもとに論述式の試験を実施するので、講義で紹介した事例や史料などをもとに、復習することが重要である。また、授業時間内で史料読解について質問や講読を求めることもある。なお、単位制度の趣旨に則り、本講義では週 4 時間の授業外学習時間が必要である。毎回の講義レジュメ、資料を用いて復習を行い、毎回提示する参考文献などを読んで理解を深める学習をしておくこと。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									
<p>清水克行『喧嘩両成敗の誕生』(講談社、2006 年)</p> <p>桜井英治『室町人の精神』(講談社、2009 年)</p> <p>芥米一志『殺生と往生のあいだ』(吉川弘文館、2015 年)</p> <p>このほか、講義内で適宜紹介する。</p>									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3639201	授業科目名	京都の歴史2			開講曜日・講時	木曜 5 限		
担当教員名	岩本 真一、吉元 加奈 美	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
近世・近代京都の歴史と文化を学ぶ									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世以降の京都の歴史を通じて自他の文化を多元的に捉えるための専門的な知識を習得できる。</li> <li>・京都の歴史に関する専門的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを京都の歴史に関する専門的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>本講義では、中世までを扱う「京都の歴史 1」(2019 年度前期開講科目)に続き、近世・近代の「京都の歴史」を取り上げる。都市としての京都は、平安京遷都から中世までの「都城」のあり方を前提としつつ、近世から近代においても、多様な人びとの生活と社会関係がひろがるなかで、大きく変化してきた。私たちが目にする現在の街並みや都市の姿は、その延長線上にある。市内に残された豊富な史料や歴史的痕跡を手がかりに、京都の歴史や文化を通時代的・構造的に捉え直してみたい。本講義では、中世までを扱う「京都の歴史 1」(2019 年度前期開講科目)に続き、近世・近代の「京都の歴史」を取り上げる。都市としての京都は、平安京遷都から中世までの「都城」のあり方を前提としつつ、近世から近代においても、多様な人びとの生活と社会関係がひろがるなかで、大きく変化してきた。私たちが目にする現在の街並みや都市の姿は、その延長線上にある。市内に残された豊富な史料や歴史的痕跡を手がかりに、京都の歴史や文化を通時代的・構造的に捉え直してみたい。</p>									
授業計画									
<p>予定は以下のとおりだが、変更することもあり得る。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 秀吉の京都の都市改造 第3回 江戸幕府による都市支配と町組・町 第4回 都市中心部の町と本店 第5回 近世の朝廷・公家 第6回 近世の宗教をとりまく人びと 第7回 西陣織をめぐる社会 第8回 京都の遊廓と遊所 第9回 幕末の動乱と京都市中 第10回 現地調査(近世編) 第11回 近代京都の都市改造 第12回 近代京都の民衆生活 第13回 近代京都の文化と思想 第14回 現地調査(近代編) 第15回 まとめ</p>									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要になる。この授業における授業外学習の内容と時間数は以下のとおり。</p> <p>予習:シラバスに基づき、関連するキーワードについて、書籍・事典・インターネット等で授業前に調べておくこと(週1時間)。</p> <p>復習:授業で配布されたレジュメや資料をもとに、授業での説明を踏まえながら全体を自身でまとめ直すこと(週3時間)。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし。									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
<p>高橋昌明『京都&lt;千年の都&gt;の歴史』岩波書店(岩波新書)、2014 年 杉森哲也『近世京都の都市と社会』東京大学出版会、2008 年 伊藤之雄編『近代京都の改造 ——都市経営の起源 1850～1918 年』ミネルヴァ書房、2006 年</p>									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3305201	授業科目名	日本・アジア関係史			開講曜日・講時	金曜 3 限		
担当教員名	柳沢 菜々、吉永 隆記	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
日本史を研究するための基礎を学ぶ									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と特に東アジアの関係を通じて自他の文化を多元的に捉えるための基本的な知識を習得できる。</li> <li>・日本と特に東アジアの関係史に関する基本的な知識を体系的に理解し、実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本・アジア関係史に関する基本的な知識にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
日本と東アジア諸国・諸地域との関係について、古代・中世を中心に通史的に学ぶ。対外関係の諸相として、人・物・文化の移動と交流、戦争や侵略の歴史、対外認識の変化などにも言及し、現代の「歴史認識」をめぐる問題の根源についても考えたい。また、古代・中世における「日本」の範囲が、現在の国境線とは異なることを念頭に、日本列島の北方・南方との関係も対外関係として取り扱う。日本と東アジア諸国・諸地域との関係について、古代・中世を中心に通史的に学ぶ。対外関係の諸相として、人・物・文化の移動と交流、戦争や侵略の歴史、対外認識の変化などにも言及し、現代の「歴史認識」をめぐる問題の根源についても考えたい。また、古代・中世における「日本」の範囲が、現在の国境線とは異なることを念頭に、日本列島の北方・南方との関係も対外関係として取り扱う。									
授業計画									
<p>予定としては以下のとおりだが、変更することもあり得る。</p> <p>第 1 回: ガイダンス</p> <p>第 2 回: 古代史 1「中華世界との接触」</p> <p>第 3 回: 古代史 2「日出処天子」—遣隋使の派遣</p> <p>第 4 回: 古代史 3「東アジアの動乱と「日本」の誕生」</p> <p>第 5 回: 古代史 4「律令国家の対外観」</p> <p>第 6 回: 古代史 5「遣唐使と天平文化」</p> <p>第 7 回: 古代史 6「東アジア世界の再編と対外観の変化」</p> <p>第 8 回: 古代史 7「海商の往来と求法僧」</p> <p>第 9 回: 中世史 1「日宋貿易の展開と宋銭」</p> <p>第 10 回: 中世史 2「東アジアにおける蒙古襲来」</p> <p>第 11 回: 中世史 3「日本国王」をめぐる対外関係</p> <p>第 12 回: 中世史 4「倭寇と東アジア世界」</p> <p>第 13 回: 中世史 5「戦国大名と対外関係」</p> <p>第 14 回: 中世史 6「日本中世における蝦夷・琉球との関係」</p> <p>第 15 回: 筆記試験</p> <p>※教員の都合によりやむを得ず急遽休講にすることがある。休講が 1 回のみ場合は、第 15 回に講義をおこない、試験・補講期間に筆記試験を実施する。また、休講が 2 回以上場合は、第 15 回および補講日に講義を実施し、試験はレポートに変更する。</p>									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
<p>授業では毎回、資料を配付するので、授業後には必ず復習すること。</p> <p>授業の冒頭に、前回授業の概要をまとめたミニレポートを提出すること。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
なし									
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』1～5 巻、吉川弘文館、2010～2013 年</li> <li>・李成市『東アジア文化圏の形成』(世界史リブレット)山川出版社、2003 年</li> <li>・河上麻由子『古代日中関係史』中央公論新社(中公新書)、2019 年</li> <li>・村井章介『世界史のなかの戦国日本』筑摩書房、2012 年</li> <li>・村井章介『増補 日本中世の内と外』筑摩書房、2013 年</li> <li>・鹿毛敏夫『アジアのなかの戦国大名』吉川弘文館、2015 年</li> <li>・入間田宣夫・豊見山和行『北の平泉・南の琉球(日本の中世 5)』中央公論新社、2002</li> </ul>									
参考 WEB サイト(サイト名・URL)									
特になし									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	HCH3313201	授業科目名	日本近現代史特講			開講曜日・講時	金曜 5 限		
担当教員名	岩本 真一	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	講義
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering</a>			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		<a href="http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix">http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix</a>			
サブタイトル									
日本ファシズムと民衆									
授業の目的・到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本近代史研究に関する専門的な知識を体系的に理解できる。</li> <li>・日本近現代史に関する専門的な知識・技能を実社会と結びつけながら自らの問いを立てることができる。</li> <li>・自分で立てた問いを日本近現代史に関する専門的な知識・技能にもとづいて分析・考察できる。</li> </ul>									
授業の概要									
<p>本講義では、「日本ファシズム」について考察する。日本は古来より「健康的」な社会であり、昭和前期のいわゆるファシズム期だけが特殊な時代であったとする認識が、かねてより広く知られている。しかし、冷静に考えればわかるように、そのどちらも同じ日本社会に他ならない。とするならば、ファシズム期という時代は、むしろ日本社会の本質が最も典型的に、極端な形で顕現した時代であるとも考えられる。以上のような認識を元に、日本の近現代史を再考してみたい。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。本講義では、「日本ファシズム」について考察する。日本は古来より「健康的」な社会であり、昭和前期のいわゆるファシズム期だけが特殊な時代であったとする認識が、かねてより広く知られている。しかし、冷静に考えればわかるように、そのどちらも同じ日本社会に他ならない。とするならば、ファシズム期という時代は、むしろ日本社会の本質が最も典型的に、極端な形で顕現した時代であるとも考えられる。以上のような認識を元に、日本の近現代史を再考してみたい。</p> <p>基本的には講義形式で行なうが、毎回、授業後に記入してもらったコメント・シートへ翌週の冒頭に返答することで双方向性を確保したい。</p>									
授業計画									
<p>予定としては以下のとおりだが、変更することもあり得る。</p> <p>第1回: ガイダンス—なぜファシズムについて考えるのか</p> <p>第2回: 日本ファシズムの時代区分</p> <p>第3回: 家族国家観と日本ファシズム</p> <p>第4回: 大正デモクラシーと日本ファシズム</p> <p>第5回: 昭和恐慌とファシズムの基盤</p> <p>第6回: 日本ファシズムと農山漁村更正運動</p> <p>第7回: 軍部のファシズム化①—血盟団事件</p> <p>第8回: 軍部のファシズム化②—五・一五事件</p> <p>第9回: 軍部のファシズム化③—二・二六事件</p> <p>第10回: 革新官僚と日本ファシズム</p> <p>第11回: 日本ファシズムの担い手</p> <p>第12回: 日本ファシズムの精神構造</p> <p>第13回: ファシズムと異質性の排除</p> <p>第14回: まとめ—草の根のファシズム</p> <p>第15回: 到達確認</p>									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要になる。この授業における授業外学習の内容と時間数は以下のとおり。</p> <p>予習: シラバスに基づき、関連するキーワードについて、書籍・事典・インターネット等で授業前に調べておくこと (週1時間)。</p> <p>復習: 授業で配布されたレジュメや資料をもとに、授業での説明を踏まえながら全体を自身でまとめ直すこと (週3時間)。</p>									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト (授業内で配付するプリント類を除く)									
とくに使用しない。									
参考文献・作品等 (購入不要: より深く授業内容を理解するための有用資料)									
講義のなかでその都度、紹介する。									
参考 WEB サイト (サイト名・URL)									